

# 水族館月報

No. 140

1964年4月

瀬戸臨海実験所振興会は、昭和39年3月末を以て解散され、水族館は昭和39年度から京都大学に直営されることになった。

この月報は、振興会時代からの通し番号で続刊されるが、内容をいくらかかえて採集・飼育・展示活動の報告を主体とした。

われわれの水族館に対し、せいぜい御意見、御鞭撻をいただくようお願いして、本月報再出発の弁とする。

なお、本号は直営移管後の初号であるから、巻末に全水槽配置図と職員名簿を附した。

## 4月の入場者数

| 一 般 団 体 |      |       |      | 有料合計  | 特別観覧 |
|---------|------|-------|------|-------|------|
| 大人      | 小人   | 大人    | 小人   |       |      |
| 71783   | 3080 | 18677 | 2103 | 95643 |      |

| 前年度比 | 1963   | 1964  | 増 減     |
|------|--------|-------|---------|
| 入場者数 | 110390 | 95643 | - 14747 |

## 水族館記事

- ◎ 1日 4623の卓上水槽9個は、これまで、総ガラスのバット（板ガラスを接着剤で組立てたもの）を使っていたが、接着剤の老化による洩水箇所が増してきたので、全槽プラスチックバット（透明メタ・アクリル樹脂4mm板製）に取替えた。
- ◎ 2日 T-3水槽のツバメウオ（昨年7月5日採集、当時5cm）は1.1cmに成長し、卓上水槽では狭くなったので、C水槽へ移収。
- ◎ 6日 地下貯水槽R-Cを大清掃。昨年同様、冷凍機クーラーから出た多量

の錆を除去した。

- ◎ 7日 齊藤商店と大阪金属の係員により、冷凍機を点検。冷却運転を再開した。
- ◎ 9日 H水槽のハマチ1個体が岩組の間に入りこんで急死。外傷・寄生虫ともに認められず、解剖した結果、死因は脊椎骨折と判つた。何ごとかに驚いて岩の間にとび込み、強打したらしい。体重2.7kg、給餌は隔日であつたが、入槽当時(昨年4月11日1kg)の2.7倍に増量していた。
- ◎ 13日 新着のハモの口腔に刺さつた釣針を摘出するのに、MS-222S ANDOZ (Tricain methane sulphonate) による麻酔を併用し、安全に施術できた。麻酔による副作用は全く認められなかつた。(資料2参照)
- ◎ 15日 雑賀崎漁師より、タカアシガニ(雄)1個体を購入。このガニが一本釣にかゝることは、極めて珍しい。G水槽に収容、今のところ、先住ガニとの闘争は認められない。
- ◎ 16日 海洋観測塔の鉄脚下で、ヒガサウミシダ *Lamprometra p. palmata* に共生している、トゲコ マチガニ *Ceratocarcinus Spinus*
- ◎ 21日 1号冷凍機故障。齊藤商店係員が点検したところ、クーラー熱交換器のアルブラック管が1本亀裂し、冷媒ガスが洩れたためとわかり、修理の手配をした。

この事故の原因は、アルブラック管製造のさいの、ごく稀な製品検査洩れのためであり、防錆の必要上冷却器缶体を硬質塩化ビニール管製としたので、設計上あるいは強度などについて弱点があつたためではなかつた。

- ◎ 23日 №24水槽のトラフグ1個体が死亡。  
解剖したところ、別記(資料3参照)の寄生虫が認められ(西村助手同定)、腎臓の左部分が著しく肥大、肉腫状となつていた。

◎ 4月の動物入手概況

1. 採集作業

| 日時    | 採集場所    | 方法      | 人員 | 主な目的動物 |
|-------|---------|---------|----|--------|
| 9日夕方  | 船揚場沖    | 素もぐり    | 1  | モミシガイ類 |
| 12日午後 | 南浜防波堤附近 | 磯採集     | 1  | ウミウシ類  |
| 13 "  | 円月島     | "       | 2  | 巻貝類    |
| 14 "  | "       | " と素もぐり | 3  | ウミウシ類  |
| 15 "  | 塔島東     | 素もぐり    | 2  | トゲトサカ類 |
| 16 "  | 海洋観測塔下  | "       | 1  | ウミシダ類  |
| 27 "  | 円月島     | "       | 2  | オトヒメエビ |
| 29 "  | "       | "       | 1  | ナマコ類   |

上記のほかに、北浜での地引網便乗採集（引網を手つだい入網した雑魚をもら  
う）5回

◎ 主な採集動物名（×印は1962年4月1日以降はじめての入槽動物）

無脊椎動物：×ミズクラゲ・オオトゲトサカ・キバナトサカ・オトヒメエビ・

ミズヒキガニ・×トゲコマチガニ・カメノコフシエラガイ・ニシキウミウシ  
・×サメジマオトメウミウシ・×ムカデミノウミウシ・ハナイカ・ヒガサウ  
ミシダ・オキノテズルモズル。

魚類：マトウダイ・ギンユゴイ・コシヨウダイ・ハマフグ・シマウミスズメ  
・セミホウボウ・シマウシノシタ・ササウシノシタ。

2. 購 入

14日に購入した大マダイ（全長79cm・体重9.3kg）をはじめとして、雑賀崎  
一本釣漁師よりの入槽が多かった。南部町塚のトロール網によるタカアシガニは  
本年は不漁で、入手できず。

◎ 主な購入動物名

無脊椎動物：キサング・オオバウチワエビ・アサヒガニ・ケアシガニ・タカアシ  
ガニ・オオナルトボラ・コウイカ・テナガダコ・ハナウミシダ・オオアカヒ  
トデ。

魚類：オオセ・ネコザメ・ヒメ・イツトウダイ・マツカサウオ・カイワリ  
・シロアマダイ・チカメキントキ・アオハタ・マダイ・イトヨリダイ・タマ  
ガシラ・キツネダイ・キンチャクダイ・シマフグ・ホウボウ。

◎ 飼 育 概 況

4月中に白点病が発生したのはJ水槽だけで、ネグボン・硫酸銅浴により治療  
中。H水槽は、外式汙過槽の併用によつて、浄化能力が向上したので、収容魚類  
数を従来の約1.5倍に増し、壮観である。無脊椎動物のコレクションは、225  
種となり、これまでの記録を更新した。

4月30日現在、飼育中の動物は総計425種3824個体以上で、その内訳は  
次の通り。

このうち、観覧水槽に飼育・展示中の動物は、403種3710個体以上。

|              |     |      |              |     |      |        |      |       |
|--------------|-----|------|--------------|-----|------|--------|------|-------|
| カイメン類        | 3種  | 8個体  | ゴカイ類         | 7種  | 21個体 | イカ類    | 3種   | 7個体   |
| ヒドロ虫類        | 2"  | 11"  | カブトガニ類       | 1"  | 1"   | タコ類    | 4"   | 7"    |
| ハチウラギ類       | —   | —    | フツボ<br>カメノテ類 | 5"  | 111" | ウミシタ類  | 4"   | 11"   |
| ウミトサカ類       | 6"  | 11"  | エビ類          | 14" | 230" | ヒトデ類   | 10"  | 203"  |
| ヤギ類          | 5"  | 33"  | シヤコ類         | —   | —"   | クモヒトデ類 | 7"   | 16"   |
| ウエラ類         | 1"  | 5"   | ヤドカリ類        | 9"  | 159" | ウニ類    | 12"  | 123"  |
| イソギンチャ<br>ク類 | 7"  | 109" | カニ類          | 27" | 56"  | ナマコ類   | 8"   | 46"   |
| イシサンゴ類       | 11" | 45"  | アメフラシ類       | 16" | 52"  | ホヤ類    | 3"   | 41"   |
| ツノサンゴ類       | 1"  | 1"   | 二枚貝類         | 18" | 407" | 軟骨魚類   | 9"   | 41"   |
| ハナギンチャ<br>ク類 | 1"  | 12"  | 巻貝類          | 37" | 646" | 硬骨魚類   | 188" | 1385" |
| ホウキムシ類       | 1"  | 4"   | ヒザラガイ類       | 2"  | 4"   | カメ類    | 3"   | 18"   |

## 資 料

### 1. 4月の気象 (午前9時観測)

#### 第1水槽室 (水温・比重はNo.24水槽)

|          | 上 旬                              | 中 旬                              | 下 旬                              |
|----------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 晴天日数: 15 | 3                                | 7                                | 5                                |
| 室温(°C)   | $\frac{16.2 \sim 20.8}{18.3}$    | $\frac{18.7 \sim 22.0}{20.4}$    | $\frac{16.9 \sim 22.4}{19.7}$    |
| 水温(°C)   | $\frac{17.28 \sim 19.67}{18.31}$ | $\frac{18.35 \sim 21.30}{19.93}$ | $\frac{18.75 \sim 21.86}{20.29}$ |
| 比重(15°C) | $\frac{25.12 \sim 25.99}{25.63}$ | $\frac{25.15 \sim 25.74}{25.48}$ | $\frac{25.17 \sim 25.74}{25.47}$ |

#### 第3水槽室 (水温)

|           |                               |                               |                               |
|-----------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| H水槽(°C)   | $\frac{16.1 \sim 19.7}{18.5}$ | $\frac{19.8 \sim 22.9}{21.4}$ | $\frac{21.0 \sim 23.8}{22.8}$ |
| T-8水槽(°C) | $\frac{18.1 \sim 20.5}{19.2}$ | $\frac{19.2 \sim 22.7}{21.0}$ | $\frac{19.3 \sim 24.0}{21.6}$ |

#### 海水取入口

|          |                                  |                                  |                                  |
|----------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 水温(°C)   | $\frac{17.8 \sim 20.40}{18.83}$  | $\frac{18.90 \sim 22.50}{20.53}$ | $\frac{18.80 \sim 22.18}{20.71}$ |
| 比重(15°C) | $\frac{25.20 \sim 20.40}{25.61}$ | $\frac{24.90 \sim 25.73}{25.49}$ | $\frac{25.16 \sim 25.69}{25.54}$ |

## 2. MS-222による麻酔テストの1例

供試魚類：ハモ（全長75cm）

40ℓバットの海水中で行ない、テスト中、エアストーン2個による曝気を行った。水温は19.8℃。

1万分の1溶液に移して3分後に失衡（横転）、鰓蓋運動が緩くなり、刺戟に対する反応がなくなった。釣針の除去に2分を要し、新鮮海水に戻して5分後に平衡は回復したが、まだ物理的刺戟には反応せず、25分後には全く正常に回復した。

## 3. トラフグの寄生虫

2月8日入槽（近大養魚場より）、4月23日死亡したトラフグ（全長45cm 2.3kg）に寄生していた寄生虫は次の通り。

| 寄生部位        | 種類                               |
|-------------|----------------------------------|
| 鰓蓋内面（戻状に吸着） | Heterobothrium tetrodonis（単世代吸虫） |
| 腸間膜・肝臓表面    | Anisakis sp. 幼生（線虫類）             |
| 口腔          | Clavelloopsis hugu（コペポーダ）        |
| 肝臓に陥入       | Floviceps saccatus 幼生（条虫類）       |

京都大学理学部瀬戸臨海実験所職員名簿

| 身 分       | 氏 名     | 分 担 業 務         |
|-----------|---------|-----------------|
| 教 授 ( 兼 ) | 市 川 衛   | 所 長             |
| "         | 内 海 富士夫 | 学 芸 員           |
| 助 教 授     | 時 岡 隆   | "               |
| 助 手       | 布 施 慎一郎 | " , 施設, 機械      |
| "         | 西 村 三 郎 | 図 書             |
| "         | 荒 賀 忠 一 | 学芸員, 飼育, 採集, 機械 |
| 教 務 員     | 田名瀬 英 朋 | 飼育, 採集          |
| 文 部 技 官   | 近 藤 貞 三 | 機 械             |
| "         | 浦 舟 二   | 採集船運転, 採集       |
| 技 能 員     | 左 海 昭 三 | 採 集             |
| "         | 樫 山 嘉 郎 | 機械, 飼育, 採集      |
| 用 務 員     | 森 山 惣 一 | 飼育, 採集          |
| "         | 太 田 満   | " "             |
| 文 部 事 務 官 | 田 中 謙 蔵 | 事 務 掛 長         |
| "         | 布 施 良 子 | 会 計             |
| 事 務 員     | 真 鍋 寿 啓 | 出 納             |
| "         | 芝 脇 喜久代 | 出 札             |
| "         | 赤 松 里 美 | 庶務, 研究補助        |
| 用 務 員     | 古 家 昭 二 | 改 札             |
| "         | 谷 坂 美和子 | 会 計             |
| "         | 辻 豊 松   | 学生宿舍管理          |
| 臨 時 雇     | 深 見 省 三 | 庶 務             |
| "         | 南 勲 一   | 改札, 場内整理        |
| "         | 南 美代子   | " "             |
| "         | 辻 キクエ   | 雑 役             |
| "         | 辻 ワキエ   | 学生宿舍食堂          |
| "         | 上 田 すみれ | 清 掃             |

昭和39年5月15日 (No.140)

編集兼発行者 市川 衛

発行所 京都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話 (白浜)2047.3515